NO. 2015・49 号
発行日：2015 年 11 月 24 日

検査のパレット

今回は、RAS（ラス）遺伝子変異解析検査（以下、RAS 遺伝子検査）についてお話しします。

RAS 遺伝子検査とは、大腸がんの化学療法薬であるセツキシマブ（商品名：アービタックス）投与に際して行う検査で、RAS 遺伝子は、RNA の合成や細胞増殖などに関わっているたんぱく質の一種で、細胞のがん化に大きく関わっているとされています。このように、がんにおける化学療法薬の治療効果が期待できるかどうかを判定するために行う検査を病理コンパニオン診断と言います。（検査のパレット No.2013.33 号参照）

RAS 遺伝子検査では、KRAS（ケーラス）exson 2，3，4（エクソン：タンパク質を作る情報を持つ遺伝子部分のこと）と NRAS（エヌラス）exson 2，3，4 に分類され、検索を行います。RAS 遺伝子検査が保険収載される 2015 年 4 月までは、大腸がん患者における KRAS 遺伝子変異に関するガイダンスに基づき、RAS 遺伝子の KRAS exson 2 という部位（エクソン：タンパク質を作る情報を持つ遺伝子部分のこと）だけを検索（KRAS 遺伝子検査）していました。（検査のパレット No.2013.24 号参照）しかし、ガイダンスの公開から約 7 年が経過し、大腸がん治療の変化や、セツキシマブの効果を予測する新たな知見が報告されたことから、**大腸がんの病理コンパニオン診断として検索領域を広くした現在の RAS 遺伝子検査が推奨**されるようになりました。

大腸がんにおける RAS 遺伝子変異の頻度は RAS 野生型が約 50%、RAS 変異型（KRAS、NRAS いずれかに変異がある）が約 50%（内訳：KRAS exson 2 変異型が最も多く 35～40%、その他が 10～15%）とされています。尚、RAS 野生型の場合、化学療法が有効と考えられています。

今後も、新たな病理コンパニオン診断がでましたら、ご紹介しようと思います。

今後とも検査室をどうぞよろしくお願いします。

文責：永田　拓生　　監修：石竹　久仁